

研究主題

生徒一人一人が学びの深まりを実感できる単位時間の授業づくり

1. 単元名

Unit 4 : Home stay in the United states (New Horizon English Course 2 東京書籍)

2. 指導観

- 本学級は、(男子19名、女子17名、計36名)のクラスである。生徒は明るく元気で、男女とも仲が良くお互いに話をしている光景をよく見かける。また、学級への声掛けも積極的に言うことが出来る生徒が多い。英語で挨拶をするときや発問に対して答えるときも、大きな声で返事が返ってくる。英語の授業に対する態度はまじめで、実践問題では一生懸命に問題を解いている様子が伺える。グループワークでは班で協力し教え合う姿が見られ、英語を使ったアクティビティでは積極的に参加する生徒が多い。そのためクラス全体の英語に対する意欲が大きいと感じられる。しかし、期末考査の度数分布図を参照すると全体の約30パーセントの生徒が英語に対する苦手意識を抱えている生徒がいる。また、外国語の理解度に差があり既習文法を用いて英文を書くことが苦手な生徒が多い。英語力を養うためには、基礎・基本の定着は必須である。指導にあたっては「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の力をより伸ばすためにペアでの活動、グループでの活動を活性化させ定着をめざし、子どもの学習意欲が持続していくことができるよう指導方法を考えていきたい。
- 本単元は、生徒がアメリカでホームステイをした時の困ったこととその解決策とが扱われる教材である。グローバル化が進んできてホームステイを経験する機会が子どもたちにも訪れることがあるだろう。旅行と違い、家族の一員として過ごすホームステイでは、コミュニケーションが重要になる。本文では、家庭内でのルールを教わる場面、ステイ中に困ったことについての相談と助言のやり取り、助言を受けて自分の意志を適切に述べる場面などが紹介されており、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせることが出来る。言語材料としては(不)必要・義務を表すhave(has) to / don' t(doesn' t) have to / must / 禁止を表すmust not / 意志や未来を表すwillを含む文を、生徒にとって身近と思われる場面、文脈を使わせながら理解させたい。
- 指導にあたっては、have(has)to=must など単純化しすぎて教えると、don' t(doesn' t) have to = must notではないかと誤った類推を招くことがあるので注意をすること。本単元では、日常生活で想定される様々な場面に即して、文章を作成することができるグループ活動を設定する。生徒にとってより身近な場面設定を行うことで、既習文法事項も含めた表現を習熟させる授業方法が文法定着につながると考えた。

3. 本単元における主体的・対話的で深い学び・学習評価の工夫

○ 主体的・対話的で深い学びの工夫について

主体的に活動できるようにするために本単元で「外国人観光客に日本の施設を正しく利用してもらうための説明書を作ろう。」という場面を設定した。今回、英文を作成するときは4名程度のグループに分け活動を行う。書くことを定着させる課題については個人、またはグループで活動に取り組み教師が机間指導を行い正しく英文をその場で書くことが出来るように指導をしている。今回はワークシートの指示に従い、アイデアを出やすくするために単語等の指定はしていない。

○ 学習評価の工夫について

学習評価については、グループで指定された施設の利用方法を示した英文を作成させる。作成したグループは口頭練習をするだけでなく、相手に伝わりやすく説明できているかどうかお互いに評価できるようにする。英文を作成する際に注意した点、感じた点を班ごとに全体にフィードバックすることで本時に求めていた「助動詞」の活用方法についても一度全体で確認することが出来る。ワークシートの記述欄にも生徒一人一人の学習活動の振り返り、まとめが出来るようにする。

4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	番号
文法を理解するのが難しい場合	どの文法を用いるか、机間指導の際に助言する。	①
英単語、熟語を理解するのが難しい場合	英単語の意味を調べることが出来るように辞書を活用するよう助言する。	②
自分の意見を英語で発言することが難しい場合	読み方をカタカナで単語の上につけさせ、一緒に読み方を確認する。	③

5. 目標

ア：コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームステイでのコミュニケーションの取り方を理解しようとしている。 ○ しようと思っていることを伝えようとしている。 ○ 家での決まりごとについて、積極的にたずね合っている。
イ：表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ する必要があることについて述べる事が出来る。 ○ 自分の意志を相手に伝えることが出来る。
ウ：理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームステイでの相談とその回答を読んで内容を理解する事をする事が出来る。 ○ 天気予報を聞いて、必要な情報を聞き取ることが出来る。
エ：言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ have to の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ○ 助動詞will・mustの形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 ○ 助動詞mustの否定形の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

5. 指導計画と評価計画（総時間10時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 have to+動詞の原形の文法事項を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ have to +動詞の原形で「～しなければならない」の意味、don't have toでは「～しなくてもよい」と表現できることを理解させる。 	<p>【関】 have to +動詞の原形の文法を理解しようとしている。</p> <p>【知・理】 have to を用いて英文を作成することが出来る。</p> <p><ワークシート分析></p>
2 ホームステイについて関心を持ち本文を理解する。教科書の題材を理解し、音読練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ UNIT4part 1 本文では外国でのホームステイの在り方を学ばせるために、ホームステイの体験談などを生徒に伝え、イメージを持たせる。 	<p>【理】 英文を読み、内容を理解翻訳することが出来る。</p> <p><発言分析></p>

<p>3 willの文法事項を学ぶ。</p>	<p>○ will+動詞の原形で既習文法であるbe going to と同じ意味をもつ「～するつもりである」の意味であることを理解させる。</p>	<p>【関】 週間天気予報、新聞のテレビ欄で未来形を用いて表現しようとする。 【表】 willを用いてbe going toと並行し英文を作成することが出来る。 <ワークシート分析></p>
<p>4 ホームステイ生活について書かれた本文を理解する。</p>	<p>○ UNIT4 part 2 本文 海外では当たり前である文化が日本では文化として扱われていないこともあることを理解させる。</p>	<p>【理】 英文を読み、内容を理解し、翻訳することが出来る。 <発言分析></p>
<p>5 must+動詞の原形の文法事項を学ぶ。mustを用いたインタビューゲームを行う。</p>	<p>○ mustを用いて、コミュニケーション活動を行う。must+動詞の原形でhave toと同じく「～しなければならない」という意味を持つこと、must not +動詞の原形でDon' tから始まる命令文と同様に「～してはいけない。」の意味であることを理解させ、前時で学んだdon' t have toとは混同しないように指導する。</p>	<p>【関】 must を用いて英作文の文法を理解しようとしている。 【関】 積極的に英語を用いてコミュニケーションを取ろうとする。 【表】 mustを用いて英文を作成することが出来る。<ワークシート分析></p>
<p>6 ホームステイ先でホスト生徒が感じたことを読み取る。</p>	<p>○ UNIT4 part 3 本文 ホームステイ先での相談とその回答を読んで、その内容を理解させる。</p>	<p>【理】 英文を読み、内容を理解し、翻訳することが出来る。 <発言分析></p>
<p>7 ホームステイ先でホスト生徒が感じたことを読み取る。</p>	<p>○ UNIT4 part 4 本文 ホームステイ先での相談とその回答を読んで、その内容を理解させる。</p>	<p>【理】 英文を読み、内容を理解し、翻訳することが出来る。 <発言分析></p>
<p>8 練習問題①を解く。既習文法や単語等を復習し、練習問題を解く。</p>	<p>○ UNIT4総復習ワークシート① 既習文法事項などを含めた練習問題を解かせる。</p>	<p>【知・理】 内容を理解し問題を解くことが出来る。★手だて① 【理】 英文を正しく書くことが出来る。 <発言、ワークシート分析></p>
<p>9 練習問題②を解く。既習文法や単語等を復習し、練習問題を解く。</p>	<p>○ UNIT 4 総復習ワークシート② 既習文法事項などを含めた練習問題を解かせる。</p>	<p>【知・理】 内容を理解し、問題を解くことが出来る。★手だて① 【理】 英文を正しく書くことが出来る。 <発言、ワークシート分析></p>

<p>10 Review まとめ <本時> (1) 施設の紹介分のデモンストレーションを聞き内容を推測する。 (2) 既習文法等を用いて英作文を完成させる。 (3) 紹介の練習を班でする。 (4) 文章を作る上で気づいたこと、感じたことを全体で共有する。 (5) 助動詞のまとめを行う。</p>	<p>○ 生徒にとって身近な施設の写真を見せデモンストレーションを行い、内容を理解させる。 ○ ワークシートを使って提示されたヒントを基に施設の利用方法についての文章を最初に日本語で考え、その後英語に直す。 ○ グループ内で文章の確認を行い、紹介の練習をする。 ○ ホワイトボードに文章を作る上で気づいた点、感じた点を書き、班長は黒板に貼る。 ○ ワークシートにまとめをかき、振り返りで自己評価を行う。</p>	<p>【理】デモンストレーションの内容を理解することが出来る。 【関】習った文法表現を用いて書くために班員と協力し話している。 <発言分析、行動観察> ★手だて① ★手だて② 【表】紹介文を作ることが出来る。 <記録分析> 【知】重要な表現を理解し、まとまりのある英文を書くことが出来る。 <ワークシート分析></p>
---	---	---

6. 本時の学習 平成30年 10月23日 火曜日 第5校時 第2学年1組 教室

(1) 主眼

must / have to / must not / canといった助動詞のそれぞれの活用法についてグループワークを通じて再確認し、既習文法及び助動詞を用いて表現できるようにする。

(2) 準備

教科書、ワークシート、マジックペン、ホワイトボード、資料

(3) 展開

<p>主な学習活動・内容</p>	<p>○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法） ★ 特別な教育的支援を要する生徒への特に困難とされる場面での支援のポイント</p>
<p>1. warm up(英語でのあいさつ) ・英語で挨拶をする。 2. Speaking Practiceアクティビティを行う。 ・生徒は挙手し、教師の質問に答える。</p>	<p>○ 大きな声で明るくはっきりとした声で挨拶をして生徒が元気に応答できるよう心がける。 ○ 教師の問いに英語で答えさせる。ヒントを頼りに答えを考え積極的に発表させる。<発言分析、行動観察></p>
<p><めあて> 外国人観光客に日本の施設を正しく利用してもらうために利用説明書を作ろう。</p>	

<p>3. 施設の利用法を示した英文を考える。</p> <p>○ 教師のデモンストレーションを見て、本時の課題を推測する。</p> <p>○ 各班で指定された施設の利用方法を4人班のところは2人で1文、3人班のところは3人で3文書く。</p> <p>○ 日本語で何を書くか考え、その後英語で作成する。</p> <p>Aグループ ・ショッピングセンター</p> <p>Bグループ ・遊園地</p> <p>Cグループ ・美術館</p> <p>○ 助動詞を用いた短い英作文をグループ内で協力し作成する。</p> <p>○ 辞書を用いて分からない単語を調べる。</p> <p>○ 各班で英文を書く際に用いた文法事項をホワイトボードに書く。</p> <p>○ クラス全体で各班が用いた文法事項を確認する。</p> <p>6. 助動詞の用法を再確認する。</p>	<p>○ 施設紹介文のイメージを持たせるためにデモンストレーションを見せ、理解させる。</p> <p>○ グループを作らせプリントを配布し活動の仕方を指示する。</p> <p>○ ワークシート上で書く説明書で用いる始まりの文を指定し、考えさせる。＜発言分析、記録分析＞ 例* we are going to introduce “ ”</p> <p>○ グループでワークシートに日本語から考えさせ、その後英文を書かせる。＜行動観察、記録分析＞ ★手だて① ★手だて②</p> <p>○ 教師は各班を机間指導し、活動が円滑に進むよう声掛けを行う。</p> <p>○ グループで書いた英文を推敲し、正しく書けているか確認させる。＜記録分析＞ ★手だて③</p> <p>○ 各班で英作文の際に用いた文法を渡したホワイトボードに書かせる。</p> <p>○ 各班で出てきた内容を取り上げ、クラス全体で共有させる。</p> <p>○ 助動詞の用法の説明を再度行い、文法事項を全体で再確認する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>助動詞を正しく用いることで分かりやすく説明書を作ることが出来る。</p> </div>	<p>○ 次回の授業の予告を行う。</p>

ご指導よろしく申し上げます。